

3月中旬からテレビなどの桜の開花予想報道に一喜一憂しました。今年は、例年より桜の開花が遅れ、入学式に桜とともに写真撮影ができた感じです。

令和6年度も区の小・中・義務教育学校は順調に教育活動がスタートしました。「俳句教育」もそれぞれの学校の計画に従い、始まりました。

区内の児童生徒は、タブレット端末の操作に慣れてきています。そこで、教員がタブレット端末を使って俳句授業が行えるよう、タブレット端末で写真を撮り、俳句を詠むという内容の教員研修会を実施しました。

俳句は3つのまとまりで作られます。そのうちの1つは「季語」です。あと2つを考えます。写真を撮ると、当たり前ですが、必ず何か写ります。写っている物を俳句に入れると、あと1つのまとまりを考えればいいことになります。



一人の教員が、こどもがいない教室の写真を撮りました。季語は「春の午後」にしました。誰もいない教室の風景に写った物は「机と椅子」です。自分だけでなく、机や椅子もこどもが来ることを待っているという俳句を詠みました。

『机椅子明日を待ってる春の午後』

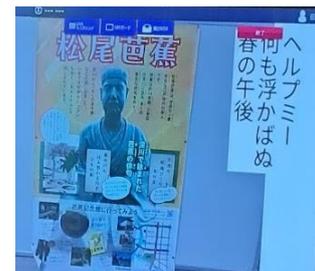
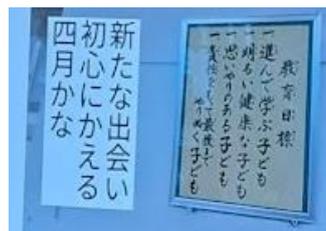
担任が翌日を心待ちにしている様子が伝わります。

同じ松尾芭蕉のポスターを使っても異なる俳句が生まれました。

『ヘルプミー何も浮かばぬ春の午後』『芭蕉様助けてほしい春の昼』いずれも「俳句を思いつかず、他力本願したくなる」気持ちが分かります。こどもたちが悩んでいるときに寄り添える教員の姿かもしれません。

学校には「教育目標」があります。その額を前に、決意を新たにす教員もいました。

雨上がりの校庭の写真を撮り、  
『春の雨明日は会えぬアートかな』



窓から見えるマンションを見て『春天に街の山々そびえ立つ』という俳句が生まれました。研修会の終わりに、全員の作品をみんなで読み合い、褒め合いました。大人でも誰かに褒められることはうれしいことです。こどもにとっても友だちや教員に認めてもらえることは大きな喜びです。今年度もこどもたちの作品のよさを価値づけ、伝えていながら、こどもたちの成長に俳句教育が少しでも寄与できるようにしてまいります。

